

規律と自由の 調和の中で 社会性を学ぶ 県立市川東高等学校

市川市北東部に位置し、うらやましいほどの広いグラウンドと緑に囲まれた県立市川東高等学校。素朴で素直な生徒たちの印象が、地域住民や父母から支持され、好感度は市内随一といえます。それは、入学時のまま、ほぼ全員が卒業していくという卒業率の高さにもよく現れています。一人一人がのびのびとした学校生活を送る生徒たち。こんな市川東高等学校を紹介します。



探したい本をパソコンで検索。

でしよう。また、服装や髪型などは「堅実に指導すべきはする。ただし、本人の自覚と良識に委ねる」校風が、一人一人の自主性を促し、社会性のある人格形成へと結びついているようです。

一歩先を行く図書室 気概にあふれる気質

創立は1977年4月。まだ26年と歴史が浅いからこそ、伝統を建前としない柔軟性があります。文部科学省が推進する「学校図書館資源共有型モデル地域事業」で、市内のモデルケースとして注目を集めるようになったのも、同校の先進性によるもの。

図書委員と職員が一丸となって、膨大な数の学校図書データをコンピュータに入力し、データベース化。現在はパソコンで探したい本が検索できます。このデータベースにより、約2万冊の蔵書検索が可能となりました。

とはいえ、決して女性上位というわけではありません。とかく学校側とぶつかりそうな交渉や、きめ細かさを問われる仕切り仕事は女子に任せ、わが道を悠々といく、といった男子たち。

このような、おらかな生徒間の役割分担が、「生徒は協調性に富み、落ち着いています。一人一人が考える力を持っている」と信じています」と樋口眞孝校長先生をして言わしめる由縁なの

元気印の 女子生徒たち

とにかく女子生徒の元気な姿が目立ちます。ここ4年ほど生徒会は女子が会長を歴任し、多くの委員会でも圧倒的に女子の構成員が多く見られ、活動をリードしてきました。秋の学園祭「松朋祭」も体育の部、文化の部ともに委員長は女子、応援団長も女子が務めました。



やる気と 能力を引き出す ユニークな仕掛け

英語コースは2学年からの選択で、現在1クラス。3学年へと継続したカリキュラムが組まれ、そのまま持ち上がるために、連帯感があり団結力はピカイチ。

このクラスが一番盛り上がるのは加瀬善康先生のオーラル・コミュニケーションの授業です。出題される例文中から正しいものを選び、AかBのカードで解答していく方式で、正解者には模造10ドル紙幣が配られます。もちろん、貯まったお金は学期末に点数化され、成績に加えられますから、学期末のお金持ちイコール高評価につながり、生徒たちは真剣そのものです。

「……従って正しいのはA」のひとつで、廊下の端まで響きわたるような大歓声が飛び交う。

放課後は部活動で ひと汗

部活動は全部で32。運動系14、文化系11、それに7つの同好会が活動しています。加入率は76.1%。教室内とはまた違った輝きで、可能性に向かって挑戦しています。

なぎなた部

戦国時代には女性の武器として使われたなぎなた。部員は全員女子で構成されています。今年はインターハイ2年連続出場という快挙を成し遂げました。「稽古は厳しく、辛いと思うこともありますが、それに負けずに頑張りたい」と、袴に防具姿がきりりとした部長は話します。



テニス部

運動部の中で63名という最大の部員数を誇るのがテニス部です。実力は地区1番。テニスは中学で軟式を覚え、高校で硬式に転換する人がほとんど。「1年生のみなが軟式上がりだから、ブロック大会でのレベルは同じです。精神面で負けるな、練習でできることは本番でもできる、といい聞かせています」と女子部キャプテンが胸を張れば、男子部キャプテンも負けじと「声を出す、明るくやる。そうすれば自然と力がついてきます。練習通りにやれば試合に勝てる」と自信の発言。



美術部

平成14年度で15回を数える12月の芸術祭には毎年大きな作品を展示しています。1年生にも必ず一人1点展示することが義務づけられているので必死です。学校の階段の壁には歴代部員の大作がズラリ。



演劇部

松朋祭で発表する演劇は、すべて生徒たちの手によるオリジナルの創作劇。夏休みからスタートし、考え、練り上げ、演じていく過程で自主的な行動や発言、柔軟な発想が育まれていきます。卒業後は演劇や舞台関係に進む者も少なくありません。

